

令和4年度 学校評価

内子町立小田小学校

- 1 実施期日 令和4年12月～令和5年2月 対象 保護者27名 児童38名 教職員10名
 2 評価 5段階評価（そう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・思わない・分からない）
 3 評定 肯定的意見・・・「思う・やや思う」、否定的意見・・・「あまり思わない・思わない」

教育目標	ふるさとに誇りをもち、自ら学び、自ら考える児童の育成
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきる力」を育み、子ども一人一人が輝く学校づくり ・心の教育の充実を図り、人権が尊重される学校づくり ・「ふるさと小田」のよさを生かした特色ある学校づくり ・安心・安全で信頼される学校づくり

平均80%以上・・・A、但し75%以下がある場合・・・B

	アンケート項目	評価結果	考察・改善	学校評価委員の評価	評定
児童の様子について	○ 児童は楽しく学校に通っている。	肯定的意見 保護者 89% 教職員 100% 児童 86%	昨年度より「5」の付く日を挨拶の日として児童、教師で挨拶を行っている。昨年度と比較すると進んで挨拶をする児童が増え、評価も上がっている。隣接する小田中学校とタイアップしながら、挨拶運動を推進していきたい。また今年度は全校遊びだけでなく中学生との遊び時間も設け、楽しく活動することができた。無理せず機会を設けて交流を図っていきたいと考える。 2学期より「おしゃべりタイム」を実施、児童一人に対して2名の教職員が、じっくりと話を聞く時間を設けた。全職員が全児童の様子に気を配り、共通理解のもと全児童が毎日楽しく通える学校づくりを目指していく。	大変素直で元気な児童が多く、気持ちのよい挨拶ができています。 積極的に挨拶をする児童が増えた。 アンケートの中に挨拶を返してくれない先生がいるとの意見があった。まずは大人から手本を示すべきである。 基本的な生活習慣を身に付けることはとても大切なことである。100%を目指してほしい。	A
	○ 児童は、進んで挨拶をしている。	肯定的意見 保護者 93% 教職員 100% 児童 100%			
	○ 児童は、外で遊ぶなど進んで体を動かしている。	肯定的意見 保護者 81% 教職員 100% 児童 94%			
	○ 児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身に付いている。	肯定的意見 保護者 85% 教職員 100% 児童 89%			
学習指導について	○ 児童は、授業が「分かりやすい」または「楽しい」と思っている。	肯定的意見 保護者 78% 教職員 100% 児童 75%	法令で定められている基準により現在の3・4年生、5・6年生が複式学級対象となるが、教頭が学担をすることにより3・4年生のみ複式となっている。教科によっては時間割の工夫により単式で行えるよう配慮をしている。 月末テストに向けての学習を継続的に続け、漢字・計算ともに効果的だった。全国学力学習状況調査においても昨年度同様よい成績を収めた。少人数のよさを生かし個別対応等で一人一人のつまずきに応じたきめ細かな指導を継続し、基礎・基本となる学力の定着に力を入れていきたい。 課題は家庭学習だ。本年度、低・中・高学年ごとに「家庭学習のすすめ」を作成した。来年度は当初よりこれを活用し、家庭の理解と協力を得ながら進めていきたい。	学力には個人差があるが、少人数のよさを生かして個別の対応をするなど工夫をしている。 基礎的な学力の定着と向上のためにより取組がされている。 自主的な学習習慣は不十分であるように感じる。しっかり身に付けられるよう努力が必要である。	B
	○ 児童は、家庭で学習する習慣が身に付いている。	肯定的意見 保護者 78% 教職員 88% 児童 69%			
生徒指導・児童理解に	○ 児童は思いやりのある心が育っている。	肯定的意見 保護者 96% 教職員 100% 児童 100%	お互いによいところを認め合ったり、協力し合ったりすることで、仲間作りを行い、思いやりの心を育んできた。引き続き道徳の授業の充実や様々な体験活動、交流活動の実践を通して、豊かな心を育んでいきたい。 毎月の生活アンケートなどで児童の実態把握に努めている。悩みの有無に関わらず、個別に話を聞く時間を設けている。「おしゃべりタイム」とも合わせて教職員間の情報交換を密にし、児童のサインに気付き早期の対応を行う。その際には必ず記録を残すことを徹底する。	「おしゃべりタイム」の取組は児童の小さな変化にも早期に対応できるよい取組だ。児童も相談しやすく、話しやすいと思う。 教職員間で情報を共有して対応できている。 「学校の先生に相談したい。」というような学校づくりに期待したい。	A
	○ 学校は、いじめや差別のない楽しい学校づくりに努めている。	肯定的意見 保護者 78% 教職員 100% 児童 97%			
		分からない 保護者 11%			

ついで	○ 学校は、児童理解や信頼関係づくり努めている。	肯定的意見 保護者 78% 教職員 100% 児童 92% 分からない 保護者 7%	現在不登校児が1名いるが、関係諸機関とも連絡を密にして対応を行っている。		
特色ある教育活動	○ 学校は、小田の人・自然・文化を生かした教育活動の充実に努めている。	肯定的意見 保護者 100% 教職員 100% 児童 92%	ふるさと学習に関する活動が増えた。地域に出かけていったり地域の方をゲストティーチャーとしてお招きしたりする学習活動を行うことができた。運営協議会「おだの学び部会」で作成している人材バンクを活用し、来年度も充実した学びの場をつくっていききたい。	愛大の井口先生との活動は意義深い者だった。来年度は地域の方にも見ていただきたい。 小田ならではの教育活動ができている。人材バンクやサポーター登録者も増えており、地域との交流が深まることに期待する。 人材バンクを活用した活動を定期的に行っていくことが大切である。	A
健康・安全教育	○ 学校は、健康安全や防災教育の充実に努めている。	肯定的意見 保護者 96% 教職員 100% 児童 100% 分からない 保護者 4%	集団下校時には交通安全面だけでなく、不審者対応、水の事故防止など、身を守る行動について継続した指導を行ってきた。 幼・小・中合同の避難訓練を継続し、内容を工夫するとともに、「自助・共助」の意識を高める安全教育に努めている。引き続き地域の防災活動にも積極的に参加していききたい。 児童が欠席したときや学校で体調不良になった場合には、学校より電話連絡を行い、健康状態等の確認を行ったが、「分からない」と答えた保護者が11%もあった。誠実な対応と連絡をさらに徹底していく必要がある。 外回りの物も含めて、今後も、児童にとって危険な物はないかを、複数の目で常にチェックし、安全管理を徹底していききたい。	登校時の見守り活動も広がってきている。今後も継続した活動ができるとよい。 学校メールなどで不審者情報も知ることができ、対応ができていると感じる。 自治会との合同訓練などよい取組だと思う。いろいろな場面を想定しながら今後も継続していくとよい。 大きな事故は起きていないが、地域ならではの危険がたくさんある。今一度、危険箇所については議論する必要がある。	A
	○ 学校は、児童の病気やけがなどの対応を適切に行っている。	肯定的意見 保護者 78% 教職員 100% 児童 100% 分からない 保護者 11%	児童が欠席したときや学校で体調不良になった場合には、学校より電話連絡を行い、健康状態等の確認を行ったが、「分からない」と答えた保護者が11%もあった。誠実な対応と連絡をさらに徹底していく必要がある。 外回りの物も含めて、今後も、児童にとって危険な物はないかを、複数の目で常にチェックし、安全管理を徹底していききたい。		
	○ 学校は、子どもが安心して学べるような施設環境になっている。	肯定的意見 保護者 89% 教職員 100% 児童 97% 分からない 保護者 11%	今年度作成した防災マニュアルをもとにいざという時の職員の動きについて毎年度確認を行うことが必要である。		
保護者・地域との連携	○ 学校は、学校・学級通信・HPなどで積極的に児童の活動の様子等を伝えている。	肯定的意見 保護者 89% 教職員 89% 分からない 保護者 4%	毎日ホームページを更新し、児童の様子や学校の教育活動の様子を紹介し、多くの方に見ていただいた。また、校報や学級通信で行事に関する児童の感想等を掲載して、学校や児童の様子を知ってもらうことができた。 ただ、今回のアンケートで「分からない」と答えた方があった。児童や学校の様子が伝わっていないことの証であると真摯に受け止め、「見える化」を図っていききたいと考える。	学校メールやホームページ、学校便り等で学校の様子がよく分かる。 十分に情報発信ができていると感じている。今後とも積極的な情報は心をお願いしたい。 児童と教職員、保護者、地域、それぞれが信頼し合える学校運営を期待する。	A
その他	○ 働き方改革を推進し、ゆとりある教育活動を展開する。		2学期より退庁時刻申告表を作成し実施したところ、ワークエンゲージメント、ワークマネージメントともに上がり、全体的に退庁時刻が早くなった。また昨年度と比べると勤務時間も短くなっている。児童数の減少に伴う教職員数減はやむを得ない。教育活動の精選、時間の短縮、業務の効率化を図ることは必須事項として計画的に進めていききたい。		

